東日本旅客鉄道労働組合 東京地方本部　East Japan Railway Workers Union・TOKYO Regional headquarters　東京地本ＨＰ

JREU TOKYO
業務部速報

2023.9.17 No.004

発行：ＪＲ東労組東京地本 業務部

東地申第2号

全組合員・全社員の命を守り、「決められたルールは確実に守る」という安全風土再確立のための緊急申し入れ

団体交渉を行いました（その1）

1. 2023 年6月1日から2023年7月31日までの間に短期間で連続して触車に繋がる事象が発生したことに対する首都圏本部の問題意識を示すこと。

（会社回答）

人命をも奪いかねない事象として重く受け止めており、事象の再発・未然防止を図っていく。なお、必要な教育・訓練は実施していく考えである。

【議論経過】

- 発生した事象について、作業の内容に思い込みがあり、普段から発生しうる事象であった。
- 「拾得」と「捜索」については「捜索」にも「見張員が必要」との教育が薄かった。教育の仕方について真摯に反省する部分もあった。
- あわや触車や気笛吹鳴を受けた事象について、運転職場で共有がなされていない。事象を報告した運転士も当事者だ。駅でホーム業務や車掌を経験していない運転士もいる。事象を乗務員区にも周知するという意見は受け止める。

【確認】

今回連続して発生した事象に対する危機意識はお互いに問題意識をもっている。教育の方法については、列車見張員と作業者との関係で、発信する側と受け止め側にギャップがあり、本質を教えるように周知をしていくことについて確認する。

2. 2023年6月23日および2023年7月5日に尾久駅構内で発生した触車に繋がる事象について、なぜ線路横断をしてしまったのか、原因ならびに首都圏本部の対策を示すこと。

（会社回答）

構内歩行に関するルールについて教育を実施してきたところであり、引き続き必要な教育を実施していく。また、注意喚起掲示物等の設置も併せて実施していく。

【議論経過】

- 気笛吹鳴と入換車両が停止した事象については「車両がまだ遠い」という思い込みがあった。気笛吹鳴したが、内燃車であったこともあり、エンジンの音がうるさくて入換車両の接近に気づいていない様子だったため車両を停止させた。特に７月５日については、入換車両に対する各種対策のため、通常よりも入換速度が低かった。通常速度なら触車していた。
- 慣れていたからこそ、過信も生まれてしまうのではないか。
- 指差喚呼をするための対策として Teams や掲示での発信を通じて周知していく。
- 「自分の命は自分で守る」ことが大前提。責任追及ではなく、何故ルール守るのか、ルールを守るためにどうするのか、本質を語る議論が大事。
- 褒める文化として、２件ともに止めた運転士のファインプレーである。危ないと感じて何で止められたのか、自分だったら止められたのか、という視点にもフォーカスし水平展開するべき。ナイスプレーについてはモビリティーサービスユニットでも把握し発信しているが、そういった視点の水平展開も行っていくべき。

【確認】

事象の原因については、慣れや過信から発生しているものと想定している。Teamsや掲示板での発信も含めて、今後も決められたルールを何故守るのか。その本質と自分の命を守ることの必要性を周知していく。（危険を感じて）入換車両を止めた側にもフォーカスし周知をしていく。